



2025年6月期 中間決算説明会

株式会社構造計画研究所 ホールディングス

2025.2.20

1. 連結決算の概要

2. セグメント別の業績状況

3. 2025年6月期 連結業績予想

4. 知識集約型企业として これまでの歩みとこれから

【本資料についてのご注意】

- 本資料の記載金額は原則、百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
- 本資料に記載されている会社名、システム名、製品名は、一般に(株)構造計画研究所ならびに各社の商標または登録商標です。

1

連結決算の概要

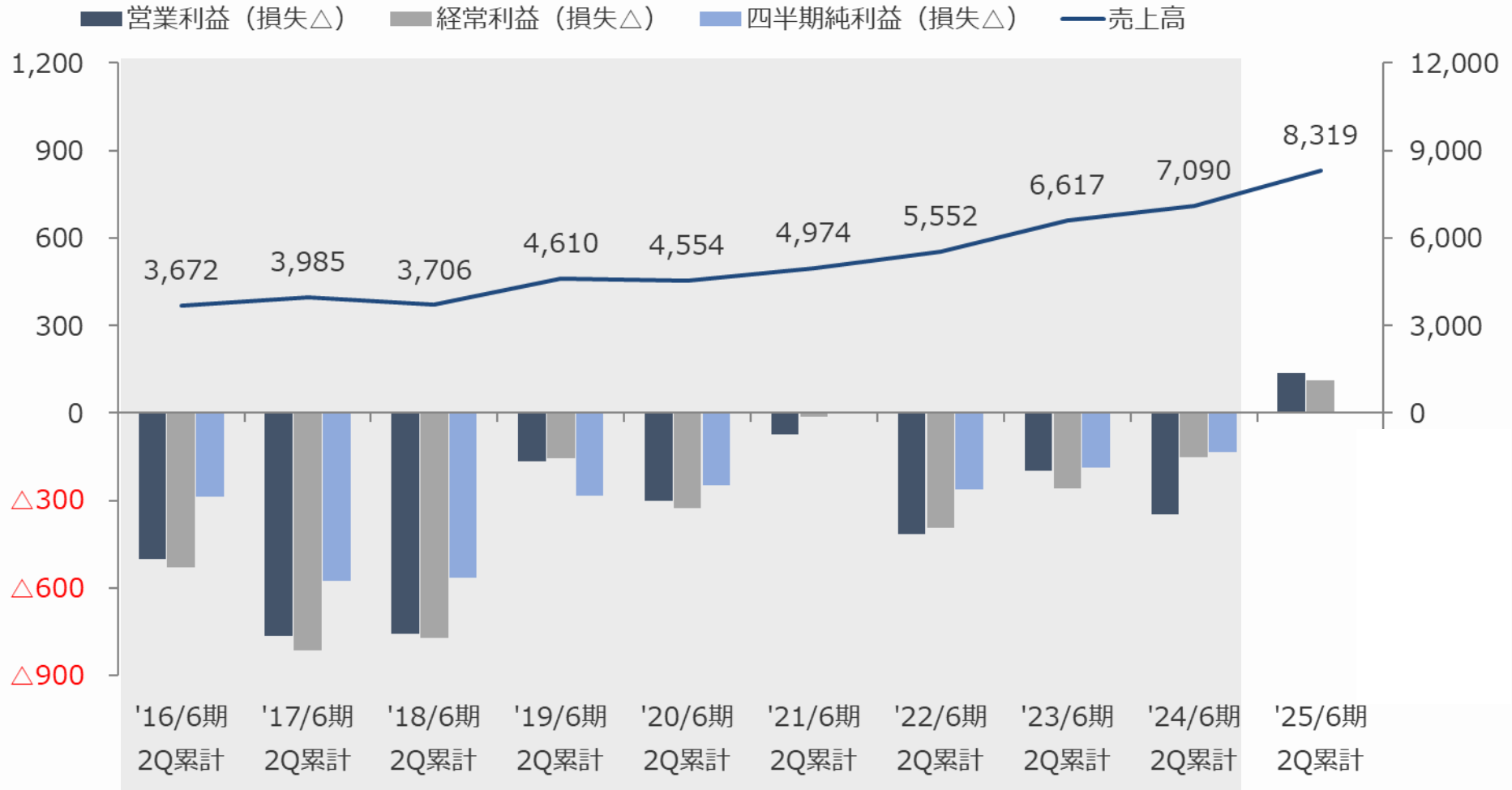
※当社は、2024年7月1日に単独株式移転により、株式会社構造計画研究所の完全親会社として設立されたため、前年同期との比較は行っていません。

(単位：百万円)

| 科目 | '25/6期 2Q (連結) |
|------------------------|-------------------|
| 売上高 | 8,319 |
| 売上原価 | 4,608 |
| 売上総利益 | 3,710 |
| (利益率) | (44.6%) |
| 販売費及び一般管理費 | 3,573 |
| 営業利益 | 136 |
| (利益率) | (1.6%) |
| 営業外損益 | △25 |
| 経常利益 | 111 |
| (利益率) | (1.3%) |
| 特別損益 | △0 |
| 税金等調整前中間純利益 | 111 |
| 法人税等 | 107 |
| 中間純利益 | 3 |
| (利益率) | (0.0%) |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | 0 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 3 |

中間期業績の経年推移

(単位：百万円)



単体

連結

※'24/6期2Q以前は (株) 構造計画研究所の数値を記載しております

(単位：百万円)

| | '25/6期 2Q (連結) | 科目 | '25/6期 2Q (連結) |
|---------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 現金及び預金 | 1,249 | 短期借入金 | 1,100 |
| 受取手形・売掛金・契約資産 | 3,164 | 1年内長期借入金 | 433 |
| 仕掛品 | 85 | 前受金 | 1,618 |
| その他 | 2,650 | 未払費用 | 314 |
| | | その他 | 2,146 |
| 【流動資産】 | 7,149 | 【流動負債】 | 5,612 |
| 有形固定資産 | 5,933 | 長期借入金 | 1,317 |
| 無形固定資産 | 322 | 退職給付に係る負債 | 2,226 |
| 投資その他の資産 | 4,889 | その他 | 515 |
| 投資有価証券 | 2,912 | 【固定負債】 | 4,059 |
| 関係会社株式 | 35 | 【負債の部】 | 9,671 |
| 関係会社出資金 | 57 | 資本金 | 1,010 |
| 繰延税金資産 | 1,424 | 資本剰余金 | 1,408 |
| その他 | 459 | 利益剰余金 | 6,102 |
| 【固定資産】 | 11,145 | 自己株式 | △ 649 |
| | | その他の包括利益累計額 | 711 |
| | | 非支配株主持分 | 40 |
| | | 【純資産の部】 | 8,623 |
| 【資産の部】 | 18,295 | 【負債及び純資産の部】 | 18,295 |

自己資本比率：46.9%

(単位：百万円)

| | '25/6期 2Q (連結) |
|---------|-------------------|
| 期首現預金残高 | 3,157 |
| 営業活動CF | △1,157 |
| 投資活動CF | △636 |
| フリーCF | △1,794 |
| 財務活動CF | △104 |
| 換算差額 | △9 |
| 期末現預金残高 | 1,249 |

2

セグメント別の業績状況



□ 構造設計・構造解析コンサルティング

特殊建築物の構造解析、風車基礎・タワーの構造設計

□ 環境評価・防災コンサルティング

地震動評価、風況解析、災害リスク評価

□ 住宅・建設分野のシステム開発

CAD・BIM・構造計算を含むシステム開発

□ 意思決定支援コンサルティング

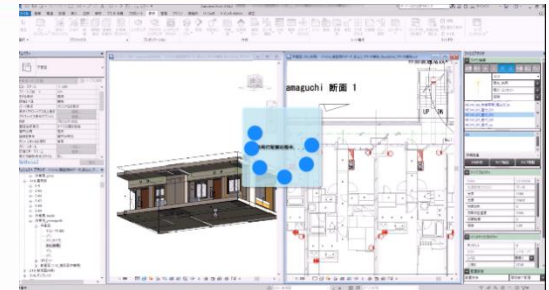
社会シミュレーション、最適化

□ 情報通信技術コンサルティング

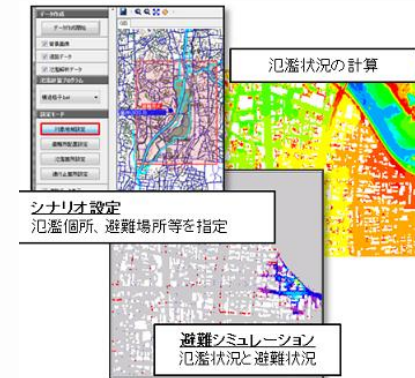
通信ネットワーク・電波伝搬・電磁界シミュレーション

□ 製造業向けデータ活用・コンサルティング

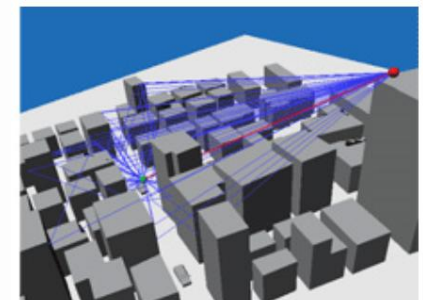
CAEによる設計の効率化、生産技術の最適化



設計の自動化(自動配置)



避難シミュレーション



電波伝搬解析

（単位：百万円）

| EC | '25/6期 2Q |
|-------------|-----------|
| 連結受注高 | 6,264 |
| 連結売上高 | 4,528 |
| 連結売上総利益 | 2,208 |
| 連結売上総利益率（%） | （48.8%） |
| 連結受注残高 | 7,260 |

分析

- 前事業年度から繰り越された案件及び今期獲得した受注案件を着実に遂行することで堅調に推移
- 全体工事の遅れ等の外部要因による売上計上への影響を低減するために契約を細分化し、分割受注・部分売上等の対応を実施したことで、遅滞なく売上高及び利益を計上
- 今後も引き続き品質の確保に留意しながら着実に案件を遂行するとともに、付加価値の高い案件獲得に努める

市場区分

製造業関連

CAE、熱流体解析、
粒子法、粉体解析、
営業支援ソリューション等

建築・土木関連

建築構造物解析、
地盤解析等

情報通信関連

電波伝搬解析等

その他・業界横断

社会シミュレーション、リスク
評価、クラウド型入退室管
理プラットフォーム他

パッケージ販売型の例



RESP*

STAN*



artisoc*

Crystal Ball

クラウドサービス提供型の例

SIMSCALE

TWILIO
SendGrid
RemoteLOCK

NAVVIS

(単位：百万円)

| PS | '25/6期 2Q |
|--------------|-----------|
| 連結受注高 | 3,310 |
| 連結売上高 | 3,587 |
| 連結売上総利益 | 1,447 |
| 連結売上総利益率 (%) | (40.3%) |
| 連結受注残高 | 1,993 |

分析

- クラウドサービス提供型ビジネスが売上成長をけん引
- クラウド型入退室管理システムRemoteLOCKは、引き続き宿泊施設や地方自治体への導入が進んでいる
- 現場3D化を加速するNavVisは、お客さまのクラウド利用が拡大する他、新製品のハンディ型3Dレーザースキャナの販売を10月から開始

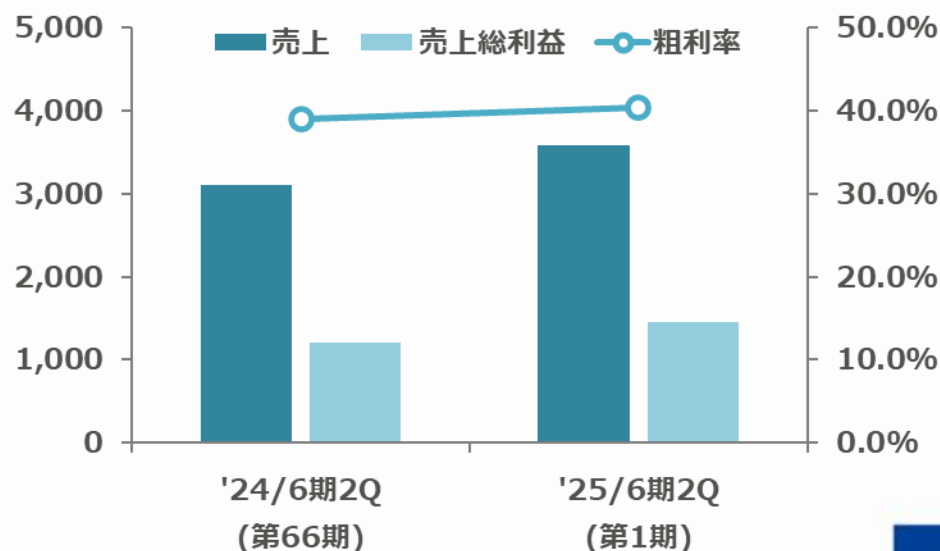
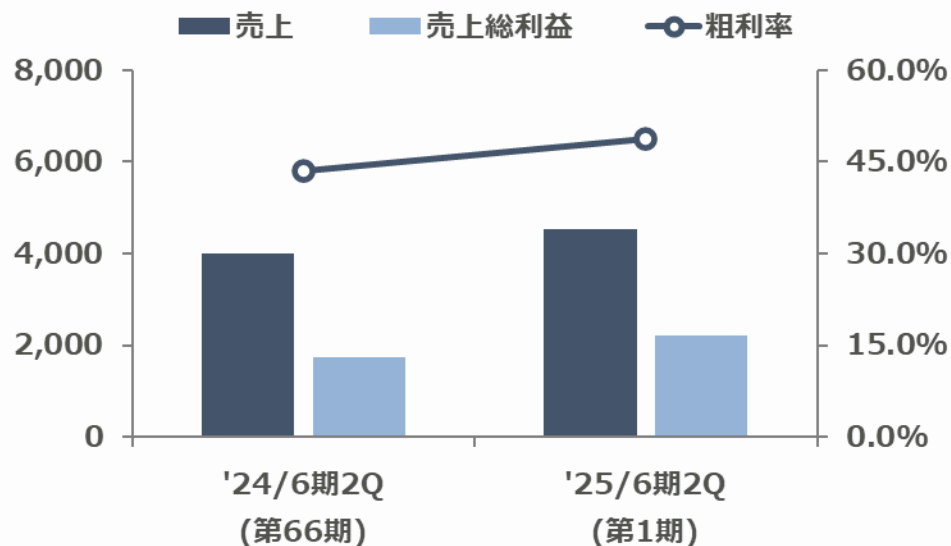
【参考】セグメント別過年度推移

※（株）構造計画研究所の過年度数値を記載しております

（単位：百万円）

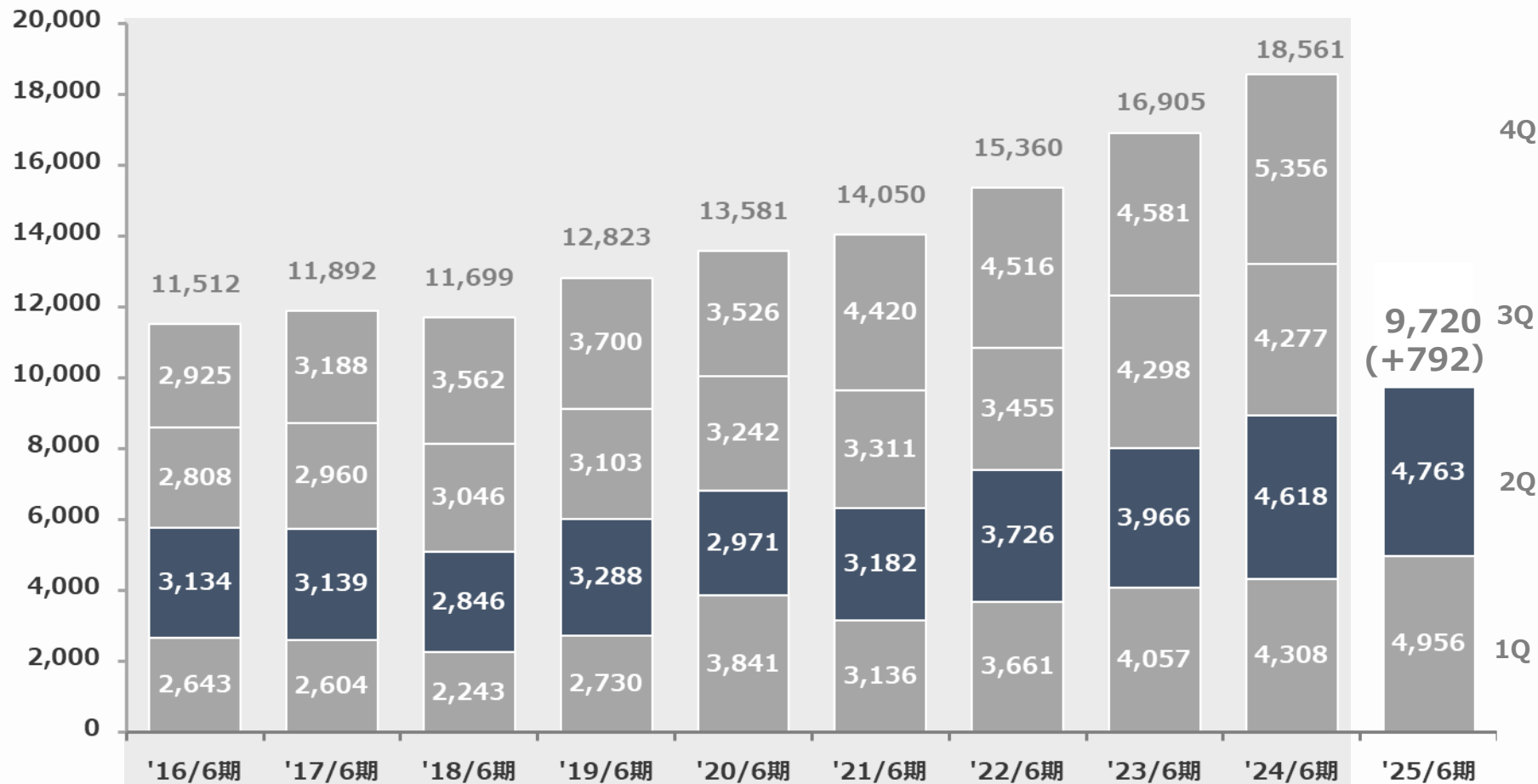
| | '24/6期2Q (第66期) | '25/6期2Q (第1期) |
|---------|--------------------|-------------------|
| EC受注高 | 5,851 | 6,264 |
| EC売上高 | 3,987 | 4,528 |
| EC売上総利益 | 1,732 | 2,208 |
| (利益率) | (43.5%) | (48.8%) |
| EC受注残高 | 7,134 | 7,260 |

| | '24/6期2Q (第66期) | '25/6期2Q (第1期) |
|---------|--------------------|-------------------|
| PS受注高 | 3,076 | 3,310 |
| PS売上高 | 3,103 | 3,587 |
| PS売上総利益 | 1,208 | 1,447 |
| (利益率) | (39.0%) | (40.3%) |
| PS受注残高 | 1,899 | 1,993 |



四半期別受注高

(単位：百万円)



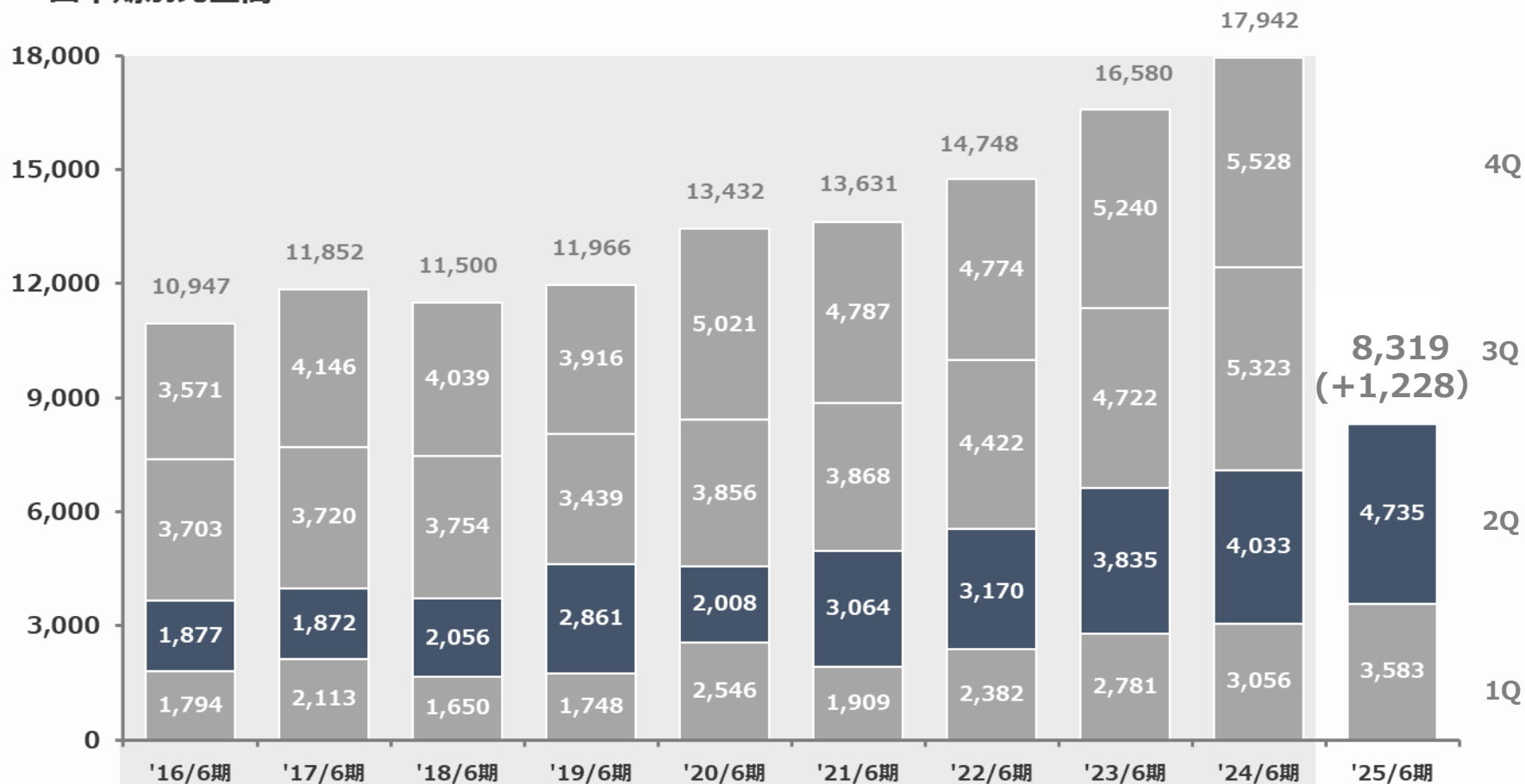
※'24/6期以前は (株) 構造計画研究所の数値を記載しております

単体

連結

四半期別売上高

(単位：百万円)



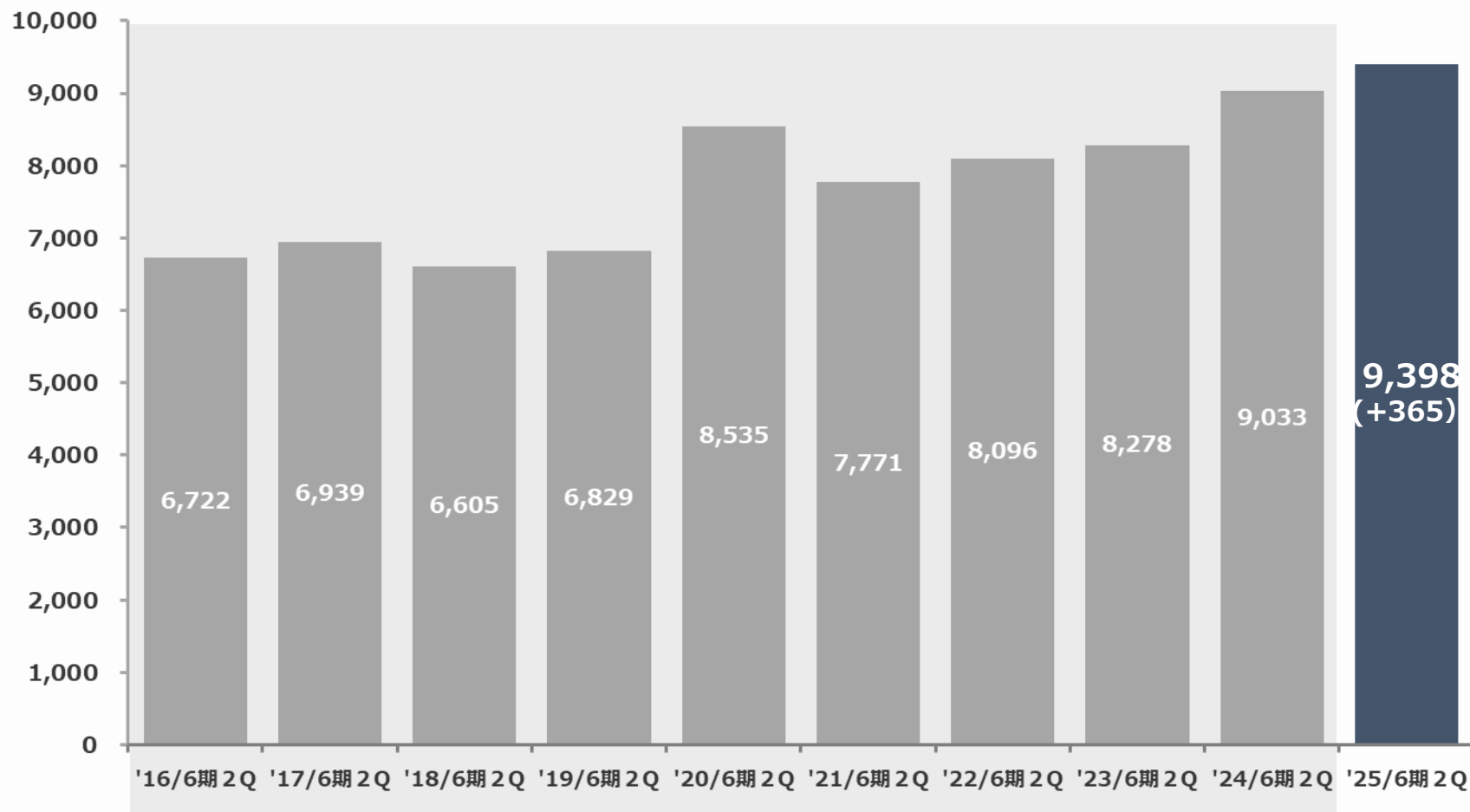
※'24/6期以前は（株）構造計画研究所の数値を記載しております

単体

連結

受注残高

(単位：百万円)



※'24/6期 2Q以前は（株）構造計画研究所の数値を記載しております

単体

連結

3

2025年6月期 連結業績予想



(単位：百万円)

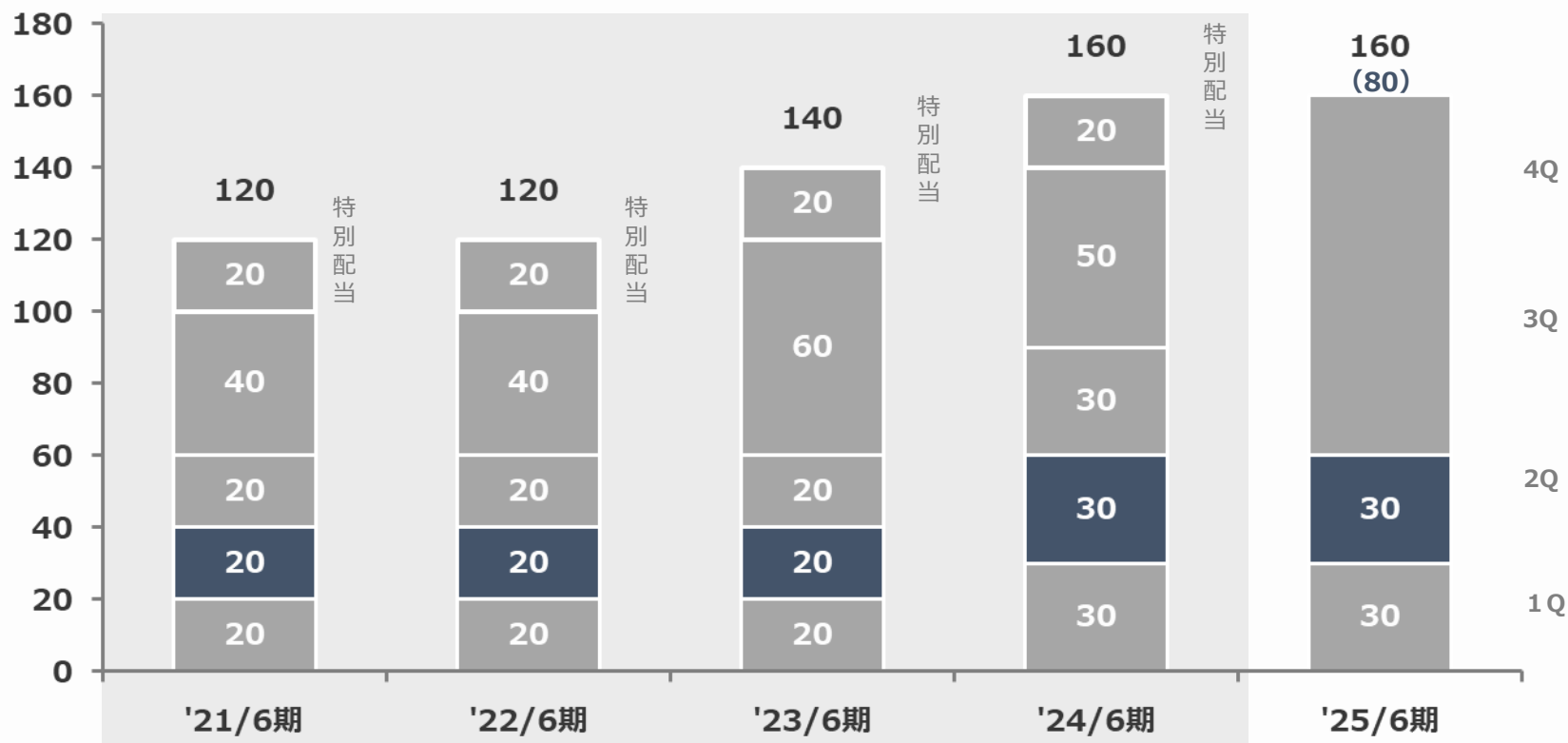
| | '24年6月期 (単体) | '25年6月期予想 (連結) | 増減額 | 増減割合 |
|-------------------------|-----------------|-------------------|-------|------|
| 売上高 | 17,942 | 19,500 | 1,557 | 8.7% |
| 営業利益 | 2,372 | 2,550 | 177 | 7.5% |
| 経常利益 | 2,534 | 2,545 | 10 | 0.4% |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1,949 | 1,950 | 0 | 0.0% |
| 年間配当金 | 160 | 80 (160) | | |

※'24/6期以前は（株）構造計画研究所の数値を記載しております

※2025年2月28日を基準日とした株式分割（分割割合1：2）に伴い、1株当たりの年間配当額予想を80円といたしました。発行済株式数の増加に伴う変更であり、実質的な配当金額は変更ございません。

一株当たり四半期配当額

(単位：円)



※'24/6期以前は（株）構造計画研究所の数値を記載しております

※2025年1月27日の取締役会において、2025年2月28日を基準日とした株式分割（分割割合1：2）を行うことを決議いたしました。これに伴い、1株当たりの配当額を80円といたしましたが、発行済株式数の増加に伴う変更であり、実質的な配当金額は変更ございません。なお、'25/6期中間配当については、2024年12月31日を基準日としているため、株式分割の影響を受けません。

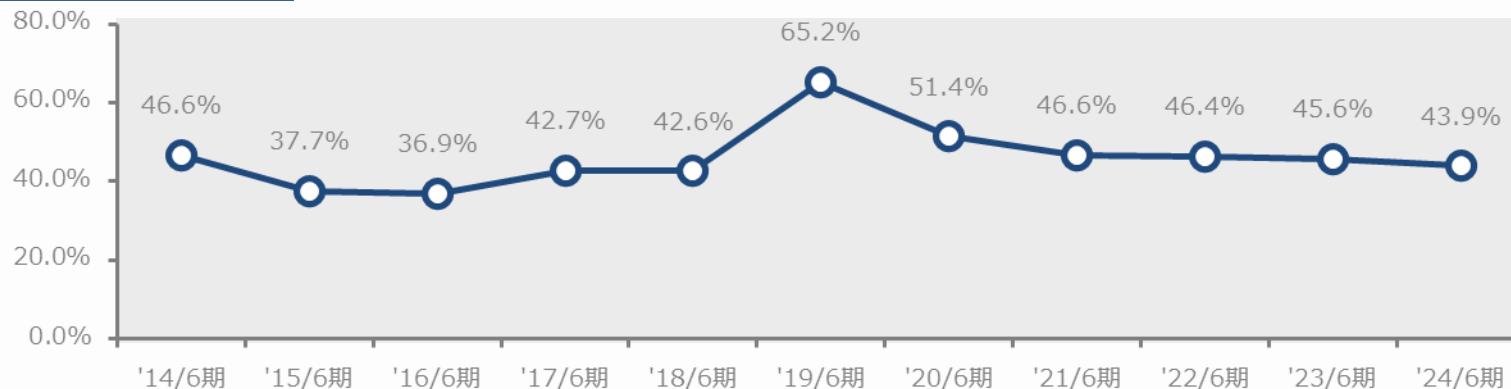
利益還元の基本方針

- 経営基盤の強化及び将来の事業展開に備えて内部留保を勘案しつつ、
- 株式の長期保有を目指した継続的かつ安定的な配当

| | | |
|----|--------------------|-----------|
| 目標 | 連結配当性向 | 50% 程度 |
| | 連結DOE (株主資本配当率) | 8% 程度 |

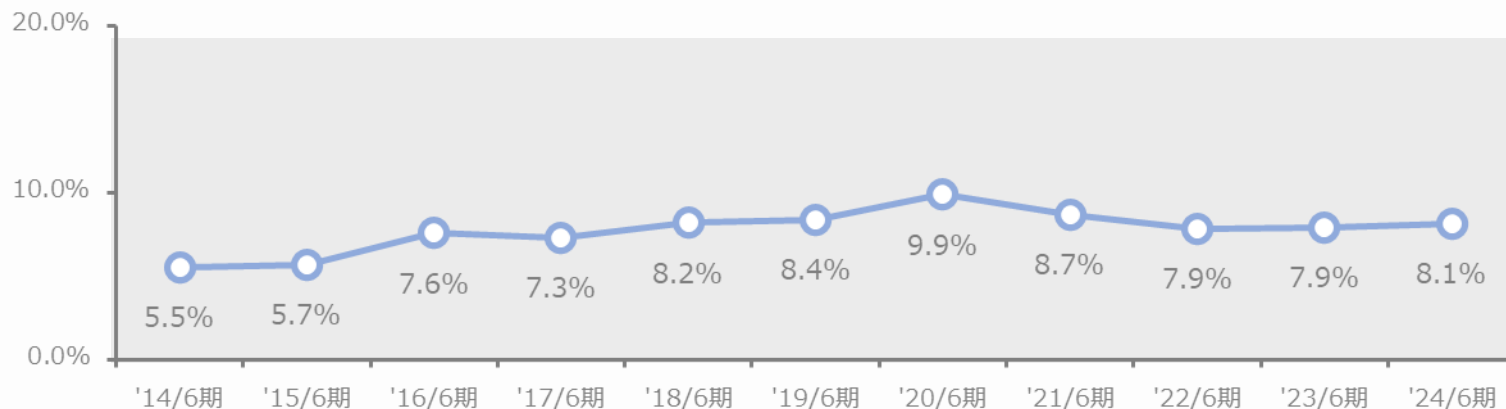
$$\text{算式：連結DOE} = \frac{\text{1株当たり配当額}}{\text{1株当たり連結純資産額}}$$

配当性向



単体

DOE



単体

業績の見通しに影響を及ぼす可能性のある事項

売上計上 スライド

資材高や人件費高騰などによる**全体工事の遅れの影響を受け売上計上時期延期**の可能性



外部要因による影響を受けないよう**契約の細分化等の対応を実施**

プロジェクトの 不採算化

契約内容や**プロジェクト管理の不備**による作業工数の増大や品質低下で、**大幅な採算悪化**等を招く可能性



プロジェクト受注前から最終成果品まで**プロセス毎に全社的な品質マネジメントを推進**

業績の見通しに影響を及ぼす可能性のある事項

売上計上 スライド

資材高や人件費高騰などによる**全体工事の遅れの影響を受け売上計上時期延期**の可能性

外部要因による影響を受けないよう契約の細分化等の対応を実施

洋上風力をとりまく外部環境の影響について

海外：計画縮小等

国内：建設コスト上昇で事業採算の悪化に伴う損失計上
入札参加を見送る事業者が出始める

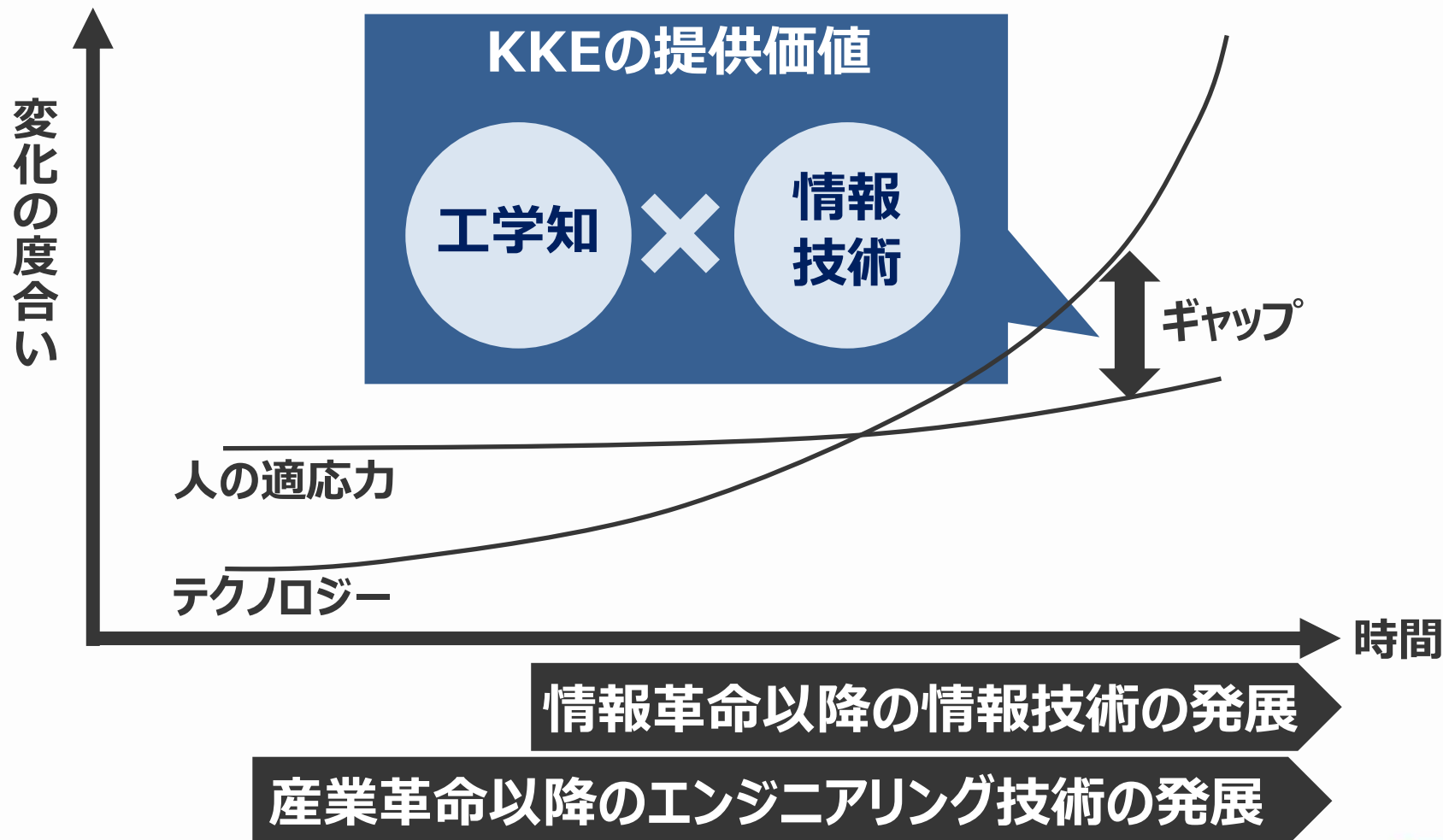
主要部分を占めている陸上風力での案件の確実な遂行と、洋上風力の環境変化に対しては柔軟な対応 → **今期の業績見通しに影響なし**

4

知識集約型企业として これまでの歩みとこれから



創業のころより、工学知と情報技術を組み合わせ、社会に役立つ価値を提供



学术界との取り組みと、海外の優れた成果の日本への進取による 高付加価値の社会への還元

KKEの提供価値

工学知



情報
技術

学术界との連携

海外との連携

- 1956年 大学発ベンチャーとして創業
- 1959年
～1960年 イリノイ大学訪問
- 1961年 IBM1620導入
- 1963年 オスロで開催された国際OR学会に
日本学術会議代表団として参加
- 1969年 サンフランシスコにILC設立
- 1970年 大阪万博で海外建築家との協力
- 1971年 国策会社日本ミニ・コンピュータ(株)
を設立



IBM1620

当初より
産学連携の結果を
学会発表等で公表

大谷 幸夫

東 孝光

榎 文彦

原 広司

大高 正人

服部 正

黒川 紀章

三澤 千代治

菊竹 清訓

尾島 俊雄

磯崎 新

東方 洋雄



1970年中央公論の特集記事〈現代建築の12人〉

服部正は建築の構造設計の分

野にコンピュータを導入した

先駆者として、建築関係者の

あいだでは早くから知られていた。最近、そのソフトウェアを米国に輸出したことで急に一般の人々からも注目され、コンピュータの専門家として、より有名になってしまった。

彼の目標は一貫して建築をシステムズアナリシスの対象としてとらえることにある。

その結果が、大規模な構造設計システムであるSTAN計画であり、コンピュータグラフィクスを利用した**対話モ**

ドによる建築設計システムの

探究である。

歴史に残る偉大な建築家は

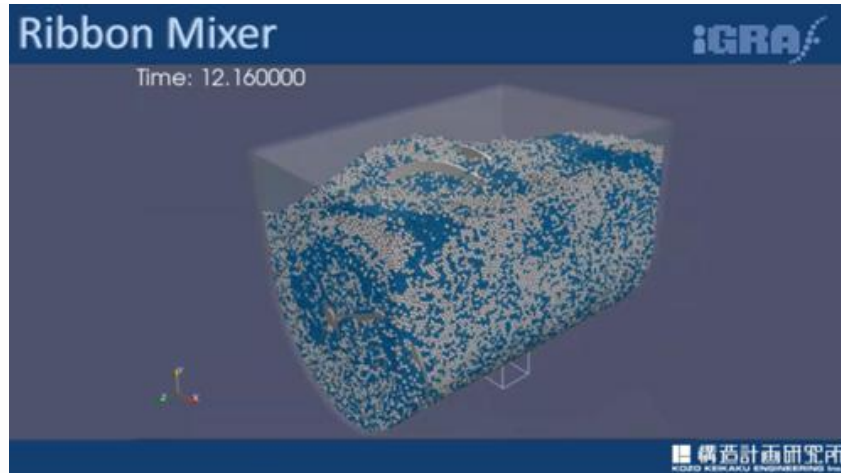
みな建築をそれぞれ独特のシステムとしてとらえていたのだが、それはともすれば華麗な造形の影にかくれがちであった。**彼はコンピュータという非情な機械によって、真に建築の骨格を構成するものに光をあてた。**建築家は、今や、二つの方向に分化しつつあるようだ。抽象世界におけるシステムの建設者と、そのシステムを造形という手段で表現する作家とである。建築家の政党を継ぐものははたしてどちらであろうか。



嶋富士夫

出所：中央公論（1970年 8月特大号 第996号）服部正 〈現代建築の12人〉第八回 システムの設計者

粉体・流体シミュレーションソフトウェア



- 粉体シミュレーション分野の権威
東京大学 酒井教授を特別技術
顧問に迎え、iGRAFを開発



東京大学大学院
工学系研究科原子力国際専攻
酒井幹夫教授

定量的な分析に基づいた、製造プロセスの効率化技術を提供

- 経験や勘に頼った製造から、理論に基づいた製造へ
- 大量のエネルギーを消費する製造から、環境負荷を低減した製造へ

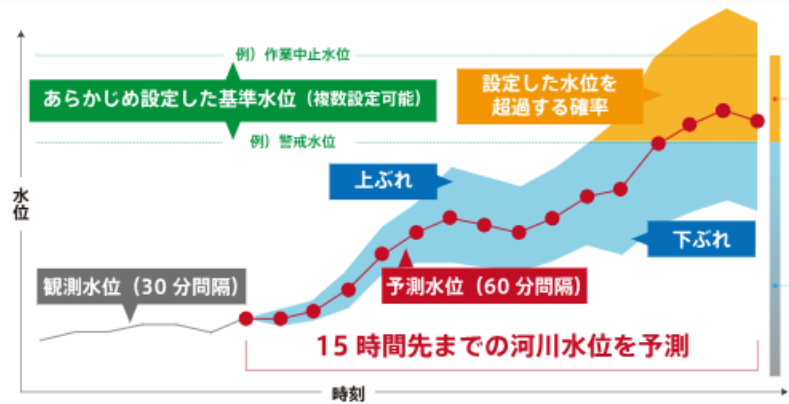
河川水位を予測するクラウドシステム



- 東京大学生産技術研究所と設置した社会連携研究部門にて、
- 複雑系やカオスの第一人者である合原教授と共に、水位予測手法を開発
- RiverCastはこの水位予測技術を応用



東京大学
特別教授 名誉教授
合原一幸教授



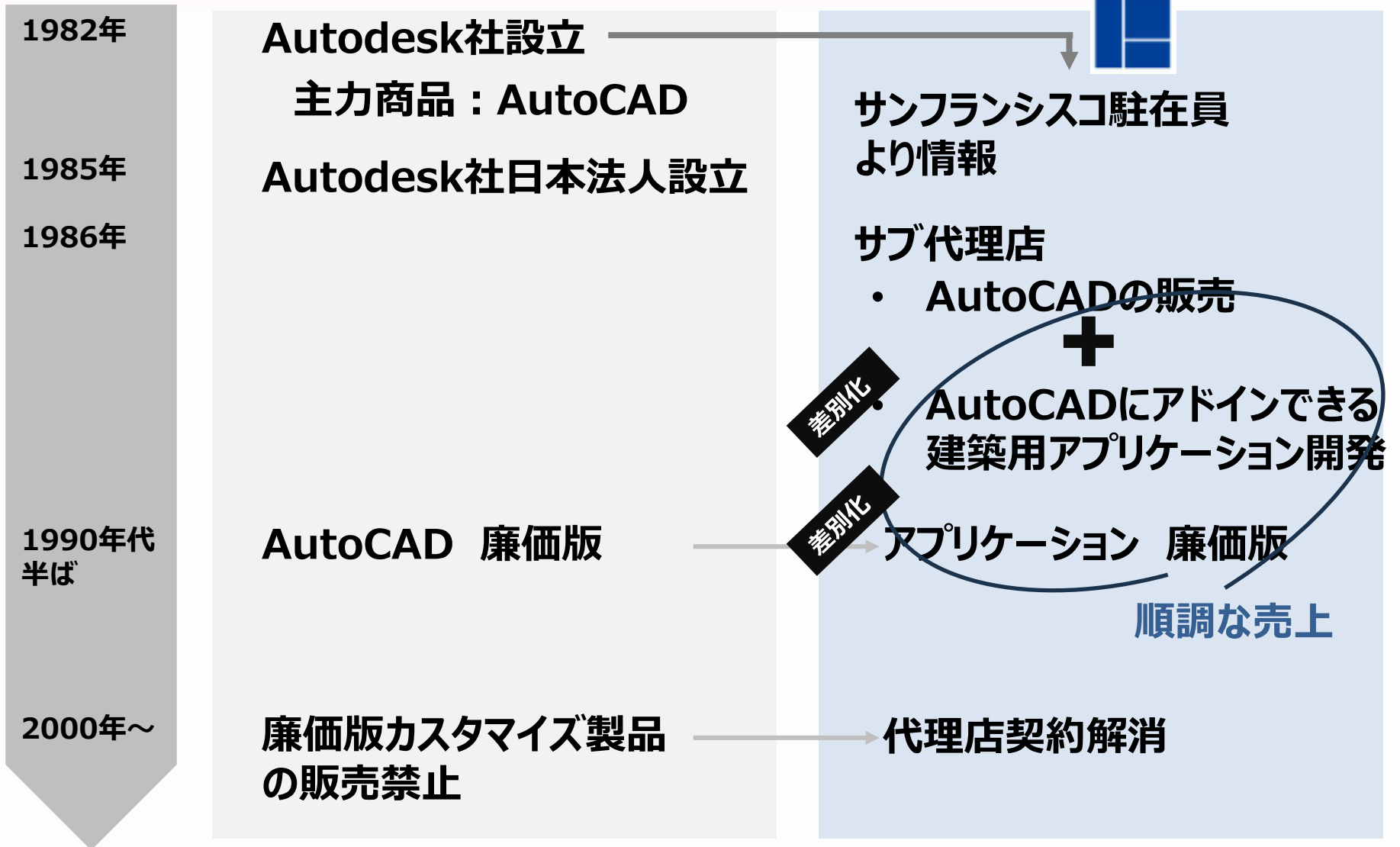
アラート通知メール
任意の基準水位の超過を予測した場合に、その旨をメールでお知らせ
予測結果が更新される 30分間隔で配信

定期通知メール
毎日任意の時刻に、観測水位・予測水位情報をメールでお知らせ
配信時刻を60分刻みでご指定可能

気象災害の被害軽減

—そのために
まずは社会への浸透を図る

海外との取り組み スタートアップとの取り組み 初期の挑戦



Pritsker社 米国パデュー大学 アラン・B・プリツカー先生主宰。教え子を
中心としたエンジニアと共に最新の汎用シミュレーションツール
「SLAM」を開発、販売。

1983年

電電公社から
どのコンピュータでも稼働できる通信システムを評価するためのシミュレーション
ツールの調査依頼

文献調査によりプリツカー先生に至る

1984年

プリツカー先生との出会い

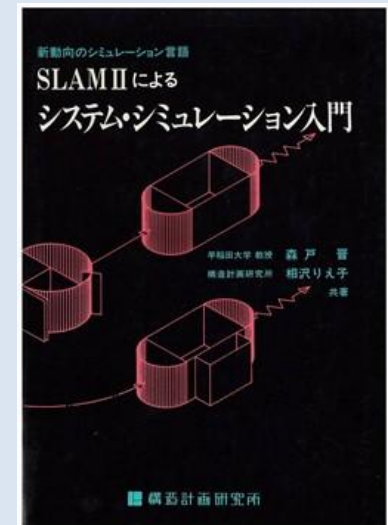
1985年

米国同様、「SLAM II」の販売とモデリング・コンサル
ティングのビジネスの日本独占展開で提携

Pritsker社からSLAMモデル化技術を直接学ぶ

1986年

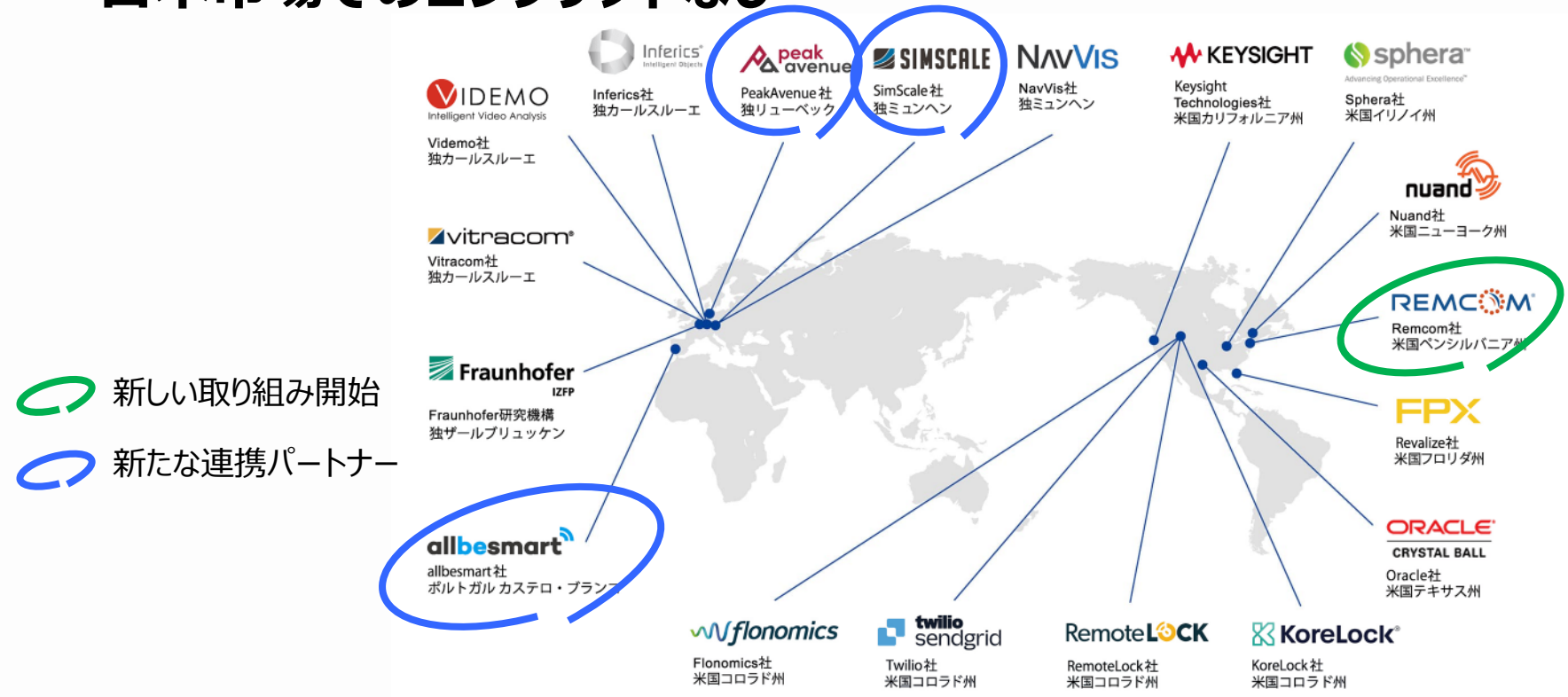
OR学会活動で知り合った
早稲田大学 森戸晋先生と共に入門書を出版



海外スタートアップとの取り組み

3つの効果

- 日本にはない新しい技術・サービスの導入
- 海外スタートアップとの連携によるリスク軽減
- 日本市場でのコンフリクトなし



共同開発

REMCOM®

アメリカ ペンシルバニア州のソフトウェア企業

<解析ソフト>



電磁界



電波伝搬



ミリ波散乱

スタートアップ連携

ドイツ2社、ポルトガル1社と連携開始



SimScale社
独 ミュンヘン



業界初の完全クラウドCAEプラットフォーム



PeakAvenue社
独 リューベック



グローバル基準のデータドリブンな品質マネジメントを実現するソフトウェア



allbesmart社
葡 カステロ・ブランコ



OAIベースの5G通信環境をオールインワンパッケージ

2000年代半ば～

代理販売開始

- 国内唯一の代理店
- 技術交流を通じたフィードバック

2023年～

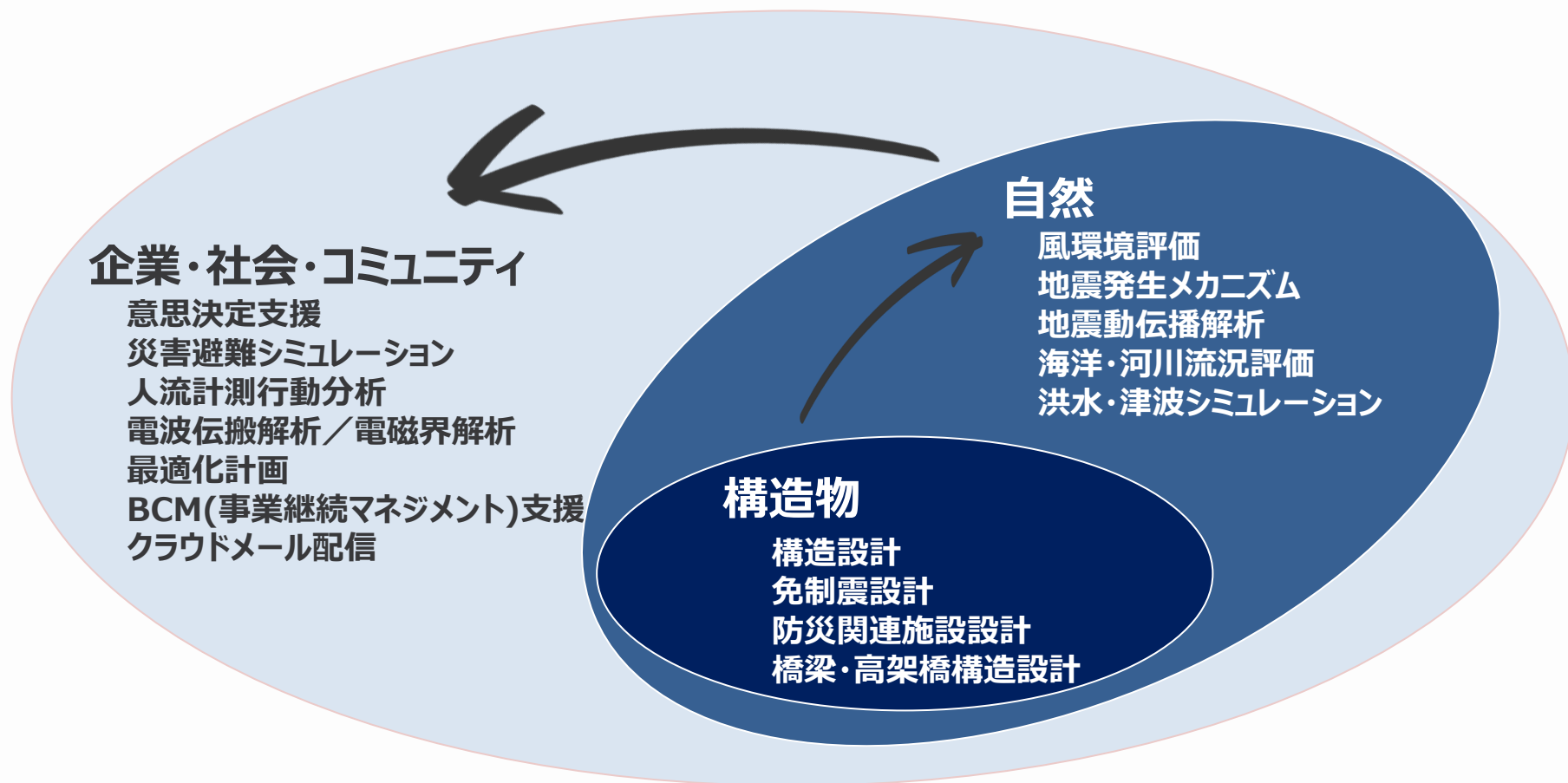
共同開発 開始

長年築いてきた信頼関係の下、
次なるステージを目指す

学术界と海外との連携に加え、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの連携による情報技術の活用により、高付加価値を実現

- 1959年
～1960年 イリノイ大学訪問
- 1961年 IBM1620導入
- 1967年 三次元骨組構造解析ソフトウェア「STAN」を開発
- 1970年 ミニコンピュータ導入
- 1970年 ソフトウェア産業振興協会の設立に参画
1972年から1983年まで会長
- 1971年 国策会社日本ミニコンピュータ株式会社を設立

工学知に基づいた情報技術の活用により対象事業領域は拡大



コンピュータの進化

- '60～メインフレーム
 - '70～ミニコン・ワークステーション
 - '80～パソコン普及

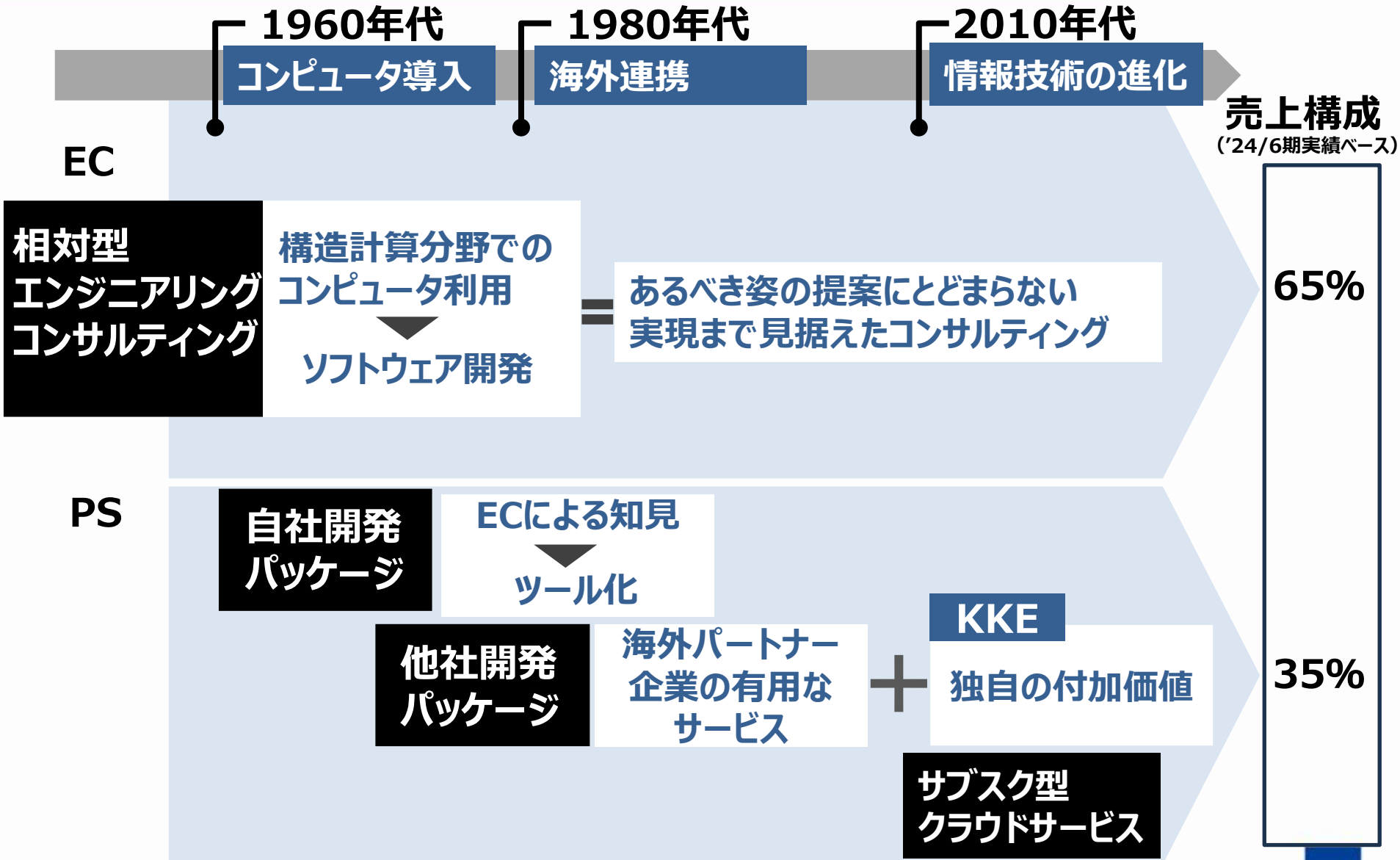
ネットワークの展開

- '70～Ethernet
 - '80～インターネットの普及
 - '00～クラウドの普及
 - '10～IoTの普及

インターフェイスの進化

- '07～iPhone登場

サービス提供方法の広がり



約10年前より取り組み始めた海外スタートアップ事業の日本展開が 成長をけん引

Twilio
SendGrid

クラウドベースメール配信サービス

RemoteLOCK

クラウド型入退室管理システム

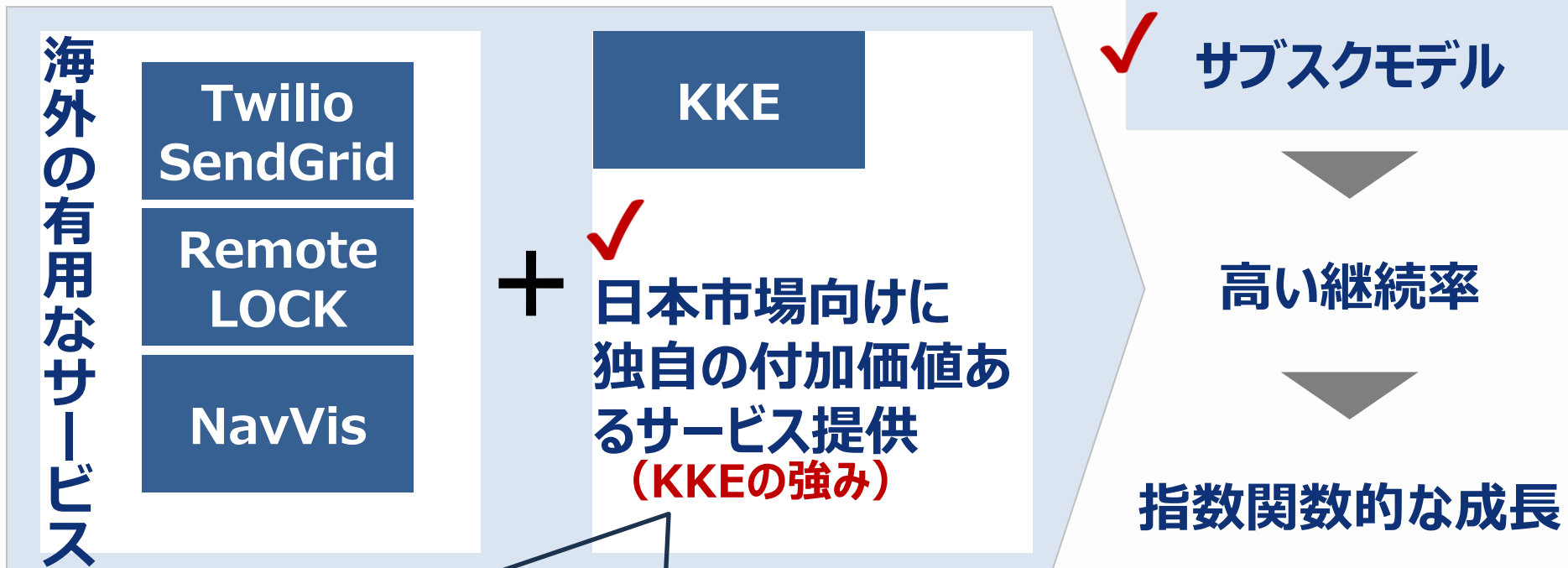
NavVis

現場3Dデータプラットフォーム

資本関係

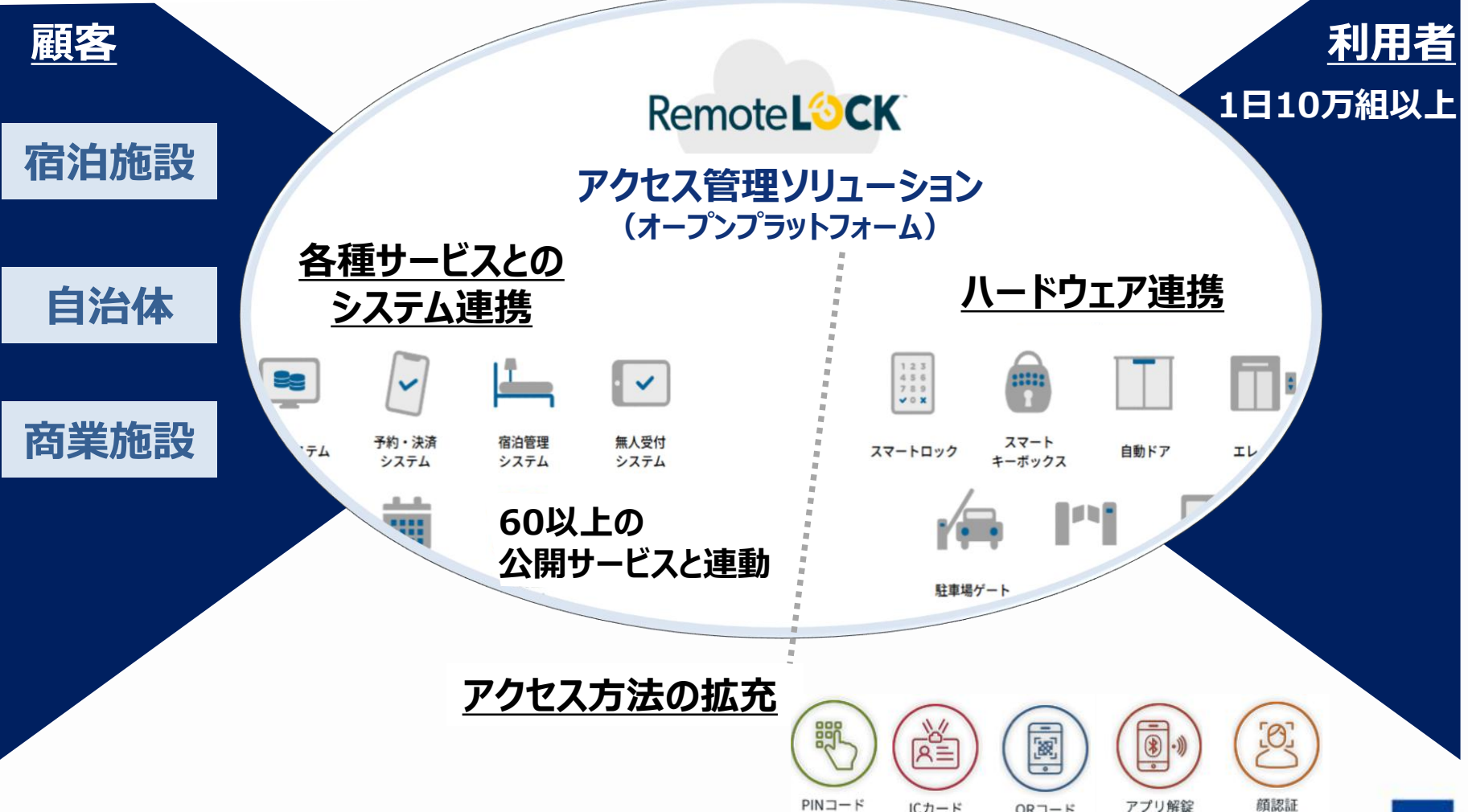
資本関係

KKEが日本市場向けに独自の付加価値あるサービスを提供。KKEの 高い価値提供力とサブスクモデルが相まって高成長実現



(背景)
過去からKKEに培われたプロフェッショナルとしての第一級の顧客満足度の獲得へのこだわり

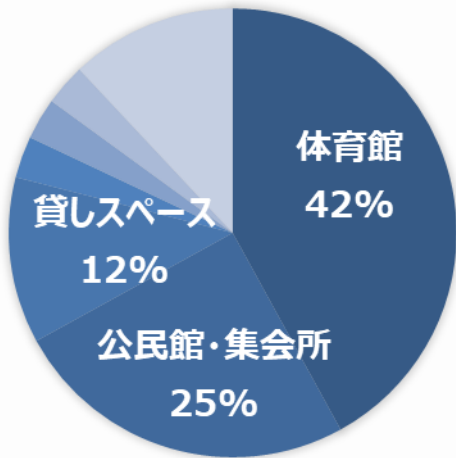
クラウド上で多数の利用者の入室を管理するプラットフォーム。
オープンイノベーションで様々なパートナーと共創。



お客様の広がり

自治体

123
の自治体に導入



自治体におけるRemoteLOCK導入施設属性と割合
(導入件数ベース)

商業施設

無人店舗
「Maxマート」
にて採用



Maxマート 鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパス店
(画像提供元：鈴鹿医療科学大学 様)

<https://www.kke-hd.co.jp/>

サービス連携

マンション管理組合専用グループウェア
「Mcloud」との連携で付帯施設を予約管理



ドアについている「RemoteLOCK 8j」
(写真提供：マンション・ラボ)

アクセス方法の拡充

Apple ウォレット・Google ウォレットとの
連携機能追加



計測器の販売から、3Dデータ活用のコンサルティング・システム開発 まで、現場3Dデータ化に関する一連のサービスを提供



3Dデータの取得から活用まで一連のサービスを展開

- 計測器販売・計測サービスによる現場のデジタル化
- クラウドサービスによる3Dデータのグローバル利用支援
- お客様の個別ニーズへのコンサルティング対応
- コンサルで得た知見に基づく自社プロダクツ開発

- 新製品ハンディ型 3Dスキャナーを発売
- 「KKE NavVis Summit Japan 2024」を独NavVis社と共に開催。新製品のお披露目と、ユーザー様の活用事例を紹介。

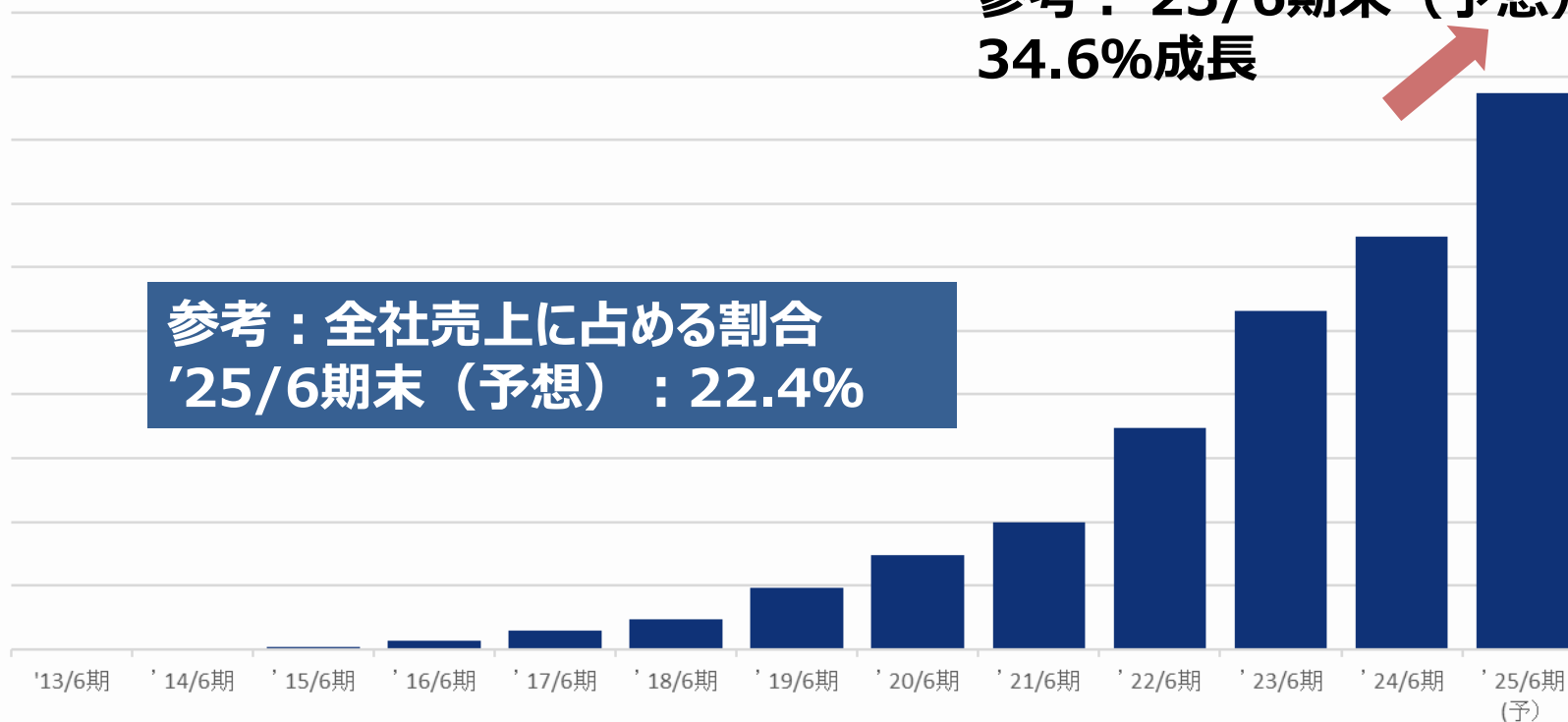


海外パートナーとの連携によるSendGrid、RemoteLOCK、NavVisの3つのビジネスがクラウドサービスの成長をけん引

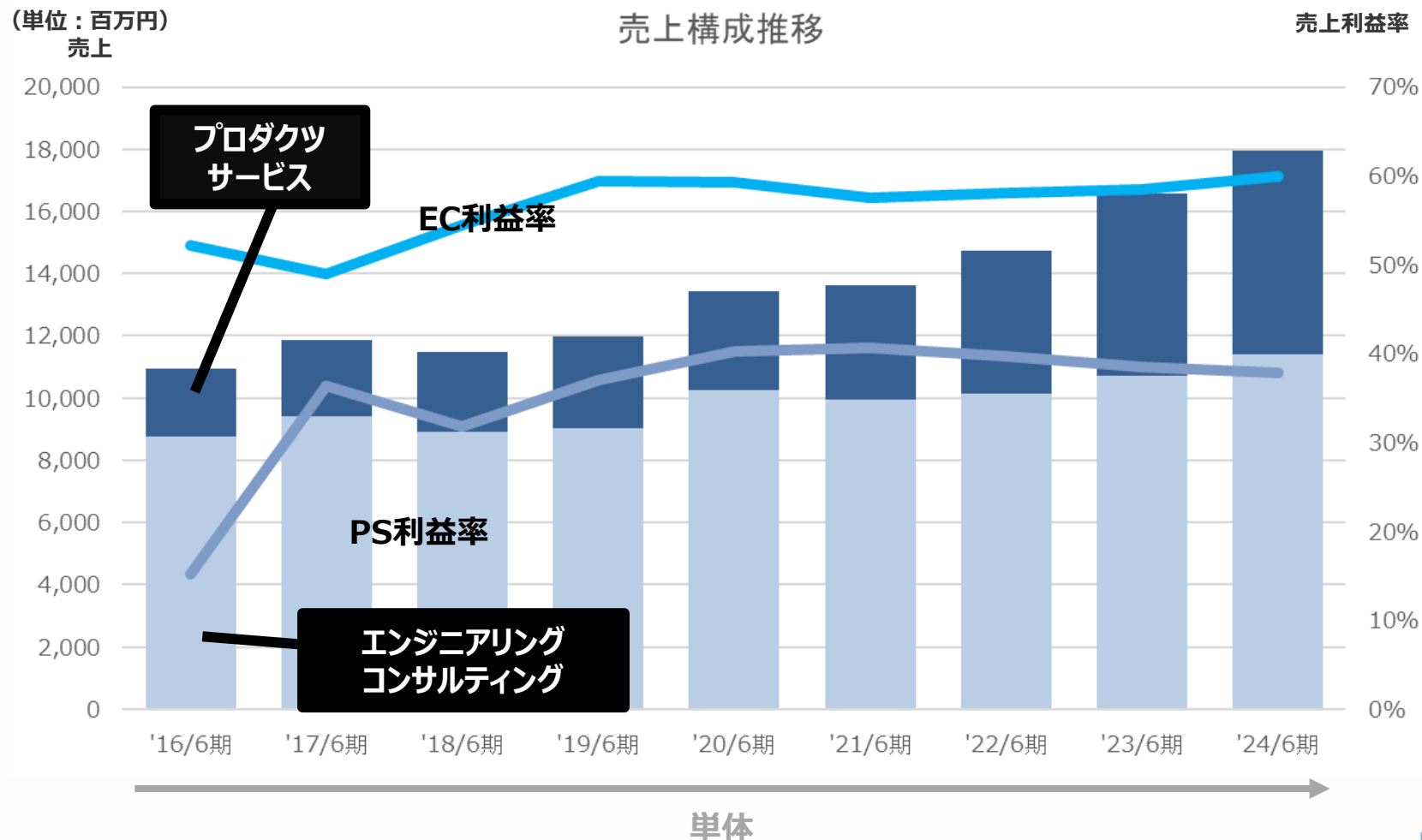
売上推移

参考：'25/6期末（予想）
34.6%成長

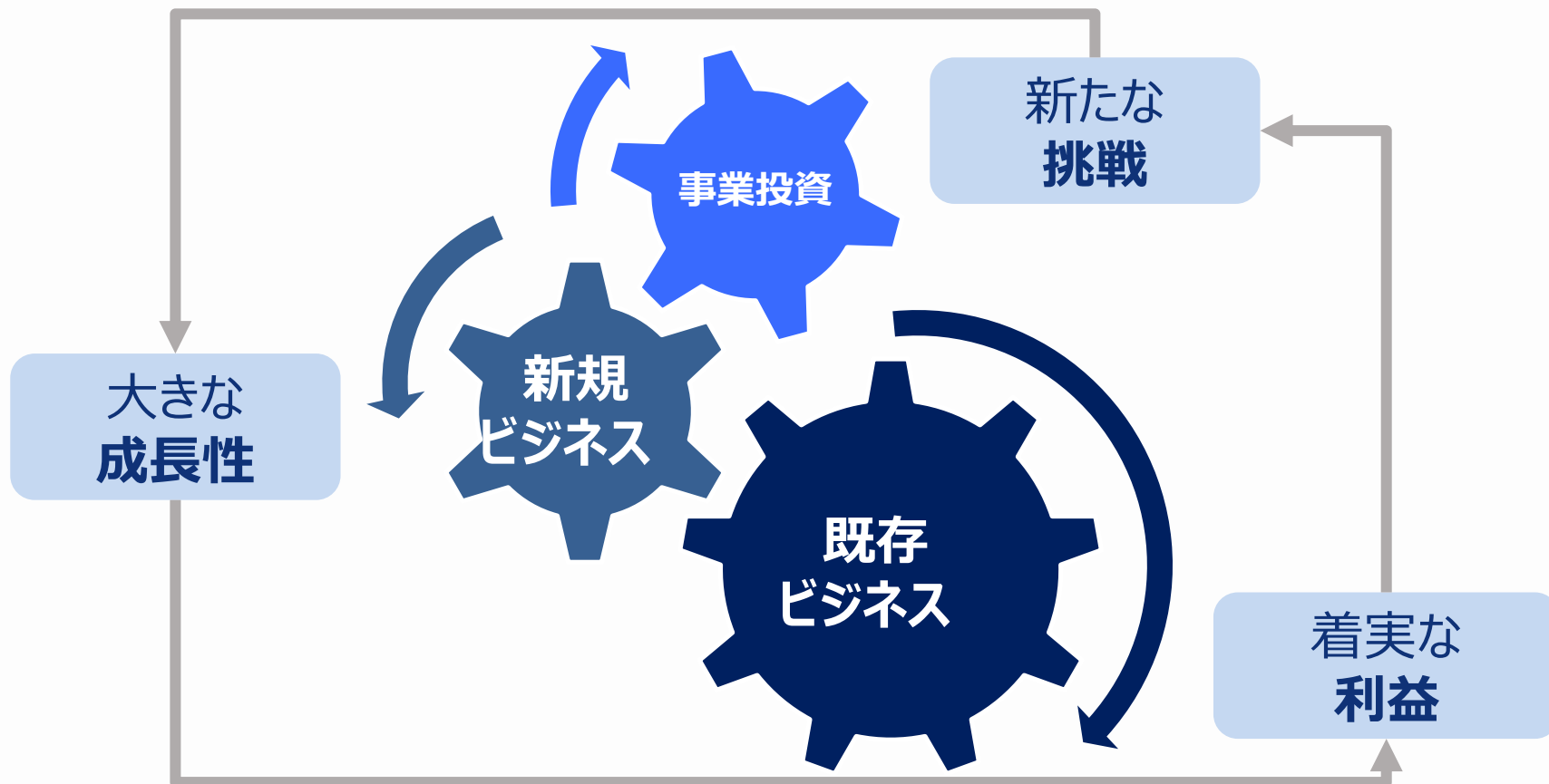
参考：全社売上に占める割合
'25/6期末（予想）：22.4%



エンジニアリングコンサルティングの安定した高い収益性が、新規ビジネスの立ち上げを可能にする



エンジニアリングコンサルティング業務の高い付加価値の維持と着実な成長が、クラウドサービスの高い成長と次世代事業の模索を支える

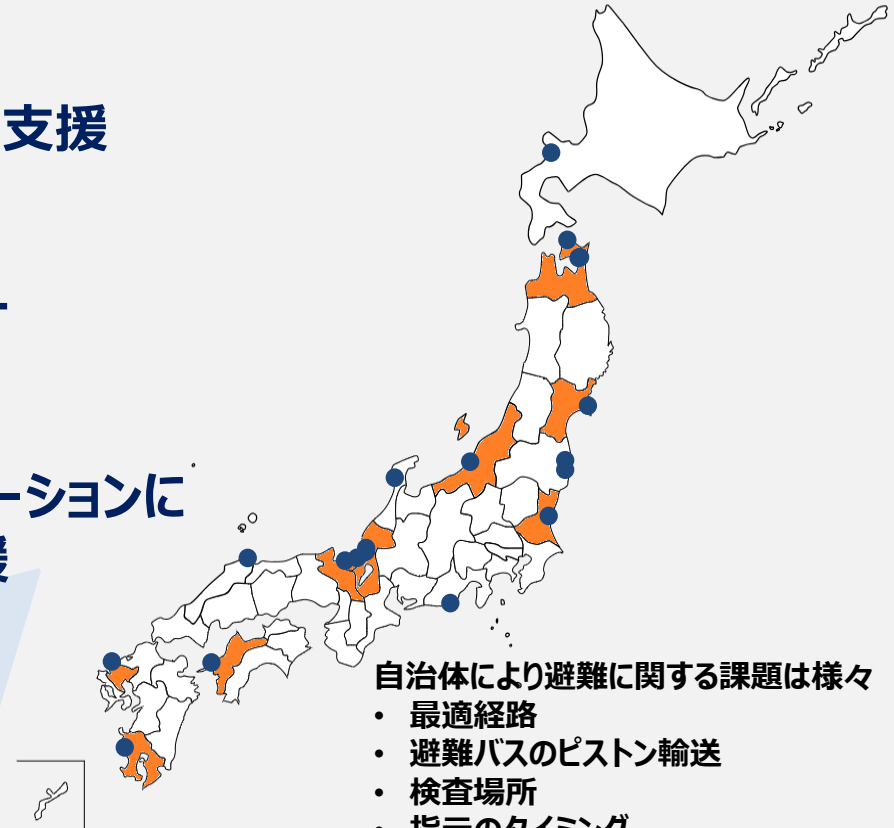


高い付加価値の維持と着実な成長のために

- 品質の徹底
- 経験曲線効果
- 付加価値向上による新たな提案

人流・防災・交通シミュレーション業務で培った知識・技術を基礎に原子力災害の避難計画策定、避難円滑化を支援

- 複数の自治体の避難シミュレーションを支援
- 内閣府等から委託を受けて「原子力災害を想定した避難時間推計のためのガイダンス策定」を支援
- 具体的な計画を反映した避難シミュレーションにより課題抽出、対策の効果検証を支援
- 避難円滑化事業の評価



大規模かつ広域な交通避難を必要とする火山噴火時等の避難計画策定へ展開

野中郁次郎先生の教え

野中郁次郎

一橋大学名誉教授、カリフォルニア大学バークレー校特別名誉教授、
日本学士院会員。元組織学会会長。
知識創造理論を世界に広めた、ナレッジ・マネジメントの権威。

■ 2012年 KKE VISION

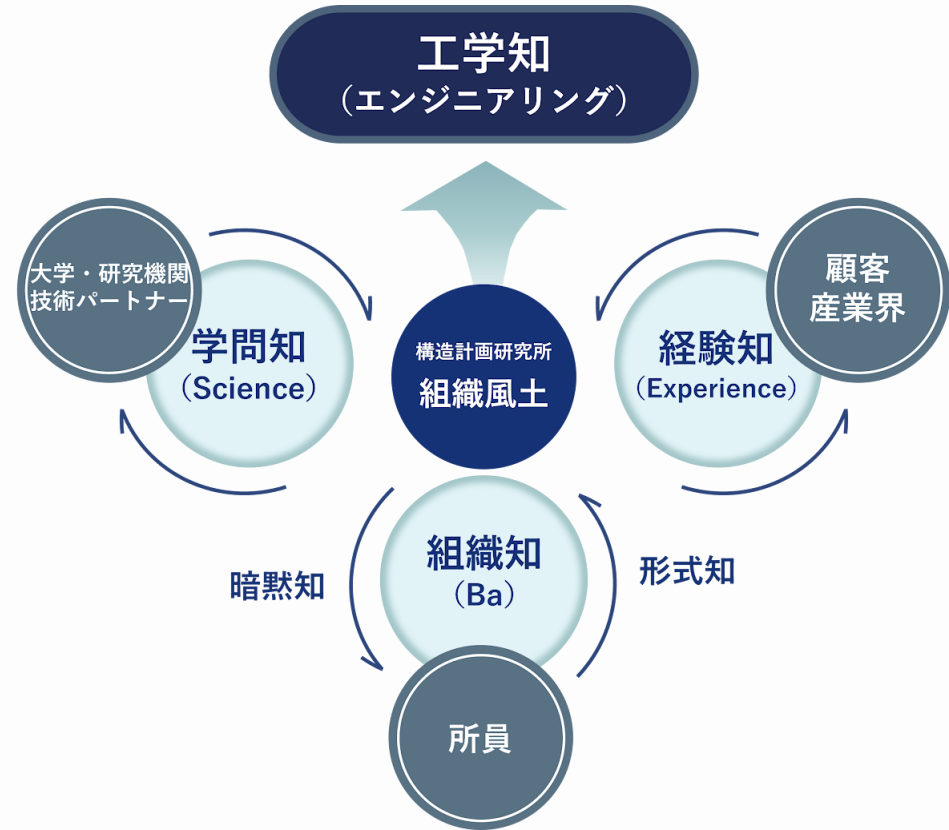
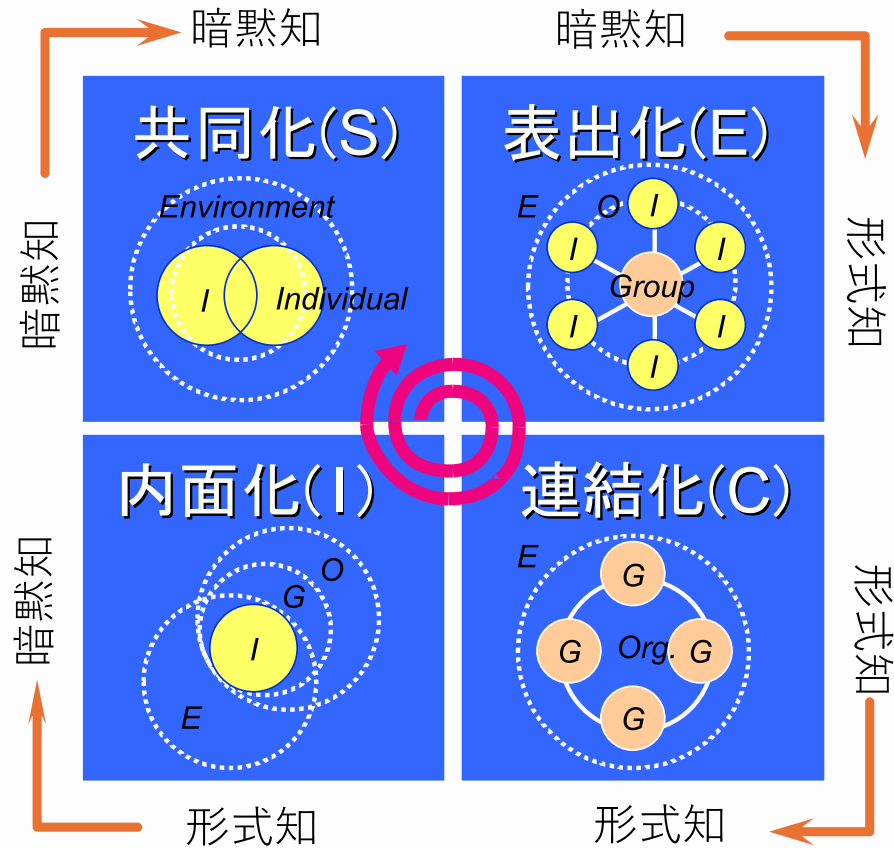
持続可能なイノベーション企業のリーダーシップ

■ 2013年 社内フォーラム

未来を創る実践知リーダーシップ

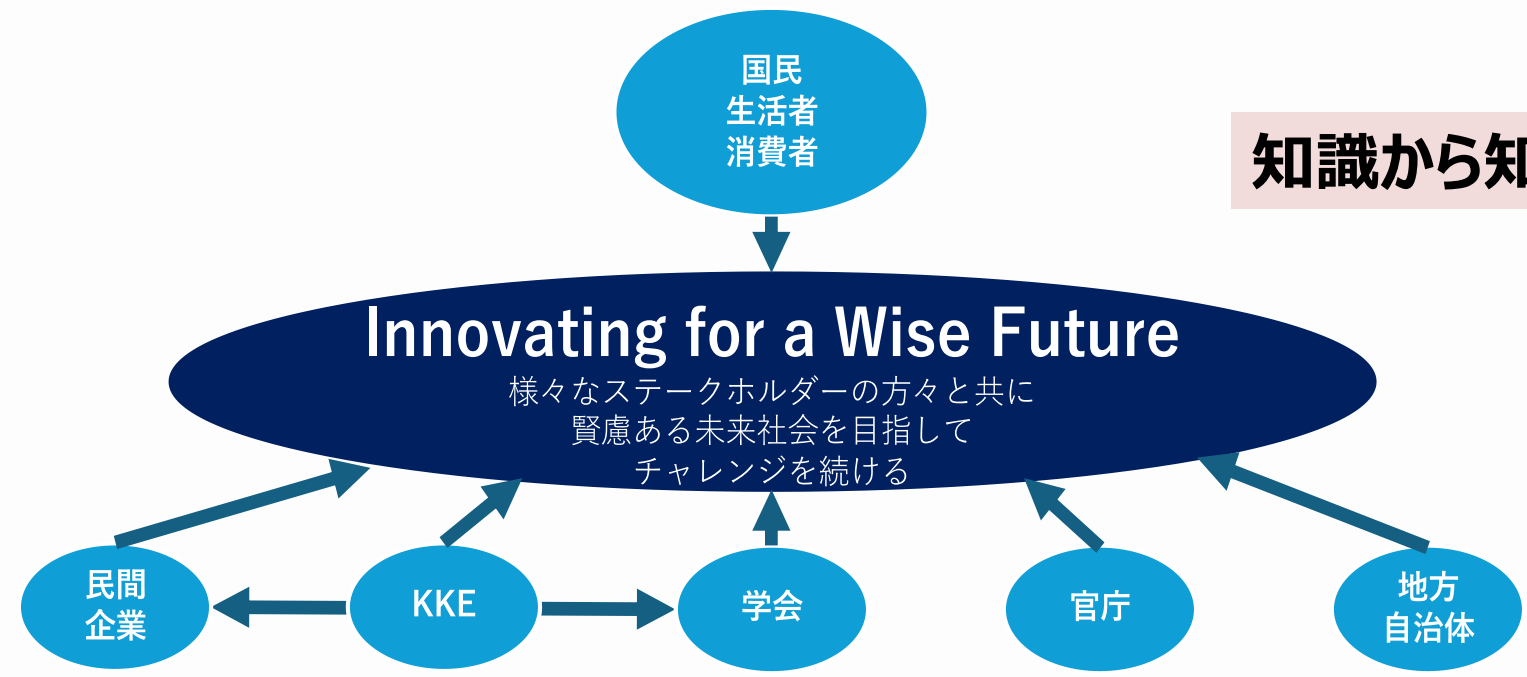
■ 2019年 忘年会

Innovating for a Wise Future : ワイズ・カンパニーに向かって

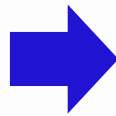


知識は関係性の中で創られる
産・官・学・民は協働することで、組織的な壁を超越していく

知識から知恵へ



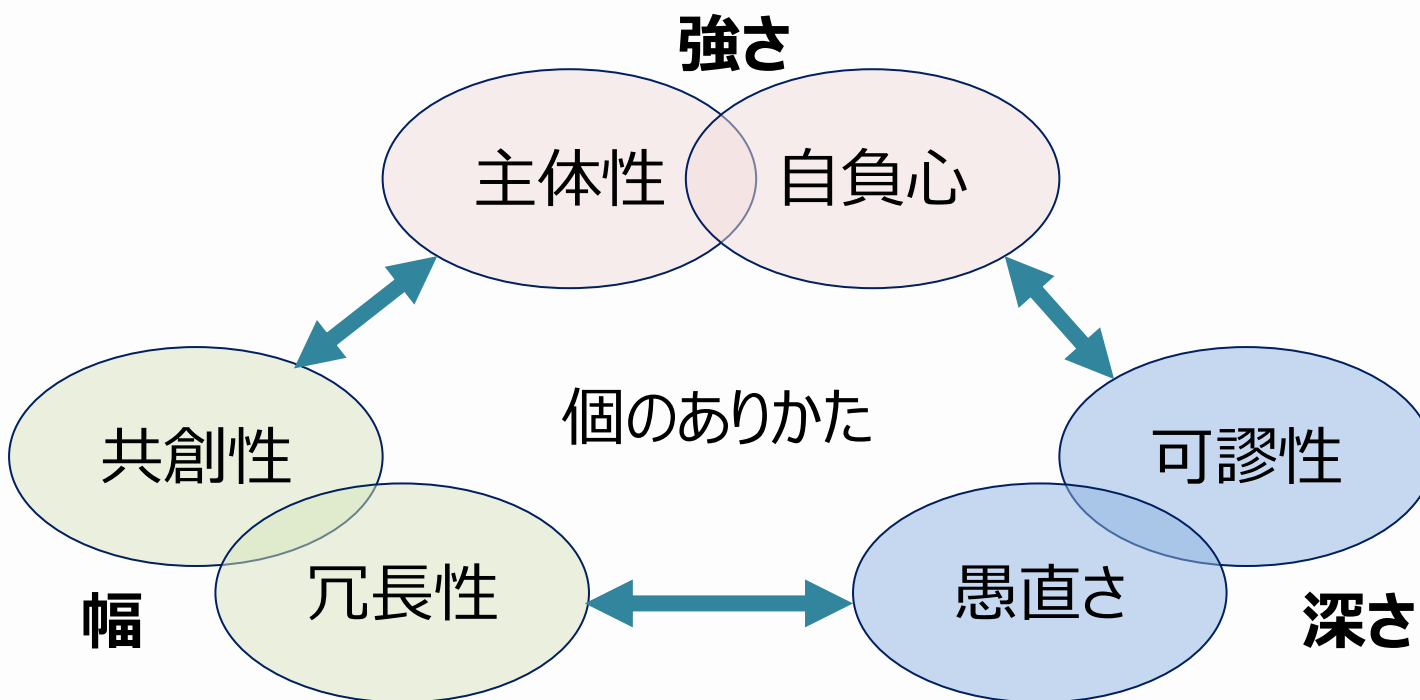
大学・研究機関と実業界をブリッジする
総合エンジニアリング企業



21世紀を代表する
知識集約型企業

~「あれか、これか(either/or)」ではなく 「あれもこれも(both/and)」へ~

物事や問題を二項対立として捉えるのではなく二項動態として捉え、その中で双方を両立させ、全体の調和を追求する



1. 論理分析過多 (over-analysis)
2. 経営計画過多 (over-planning)
3. コンプライアンス過多 (over-compliance)

**われわれは今、虚業から実業へ
回帰すべきではないか**



2025年1月25日 野中郁次郎は旅立ちました
遺した思いを实践するのは 私たちです

経営とは、生き方 (a way of life) である
意味を問わなければ、イノベーションは生まれない

野性を磨け！ 賢慮を育め！

考える前に感じろ

イノベーションは、共感と対話からはじまる

現実の只中で本質を直観せよ

人は関係性の中で人になる

異質との出会いを楽しもう

付度するな！ 全身全霊で知的コンバットせよ

スクラムを組み、集合知を創造せよ

自己変革に挑み続けよう

覚悟をもってやり抜け！

われわれは世界平和のためのチームだ

未来の共通善に向かって、「物語り」を共に創ろう

暴れまわろぞ！

©2025 Nonaka I. all rights reserved.

@2025 Nonaka I. all rights reserved.

Copyright© KOZOKEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc. All Rights Reserved.

質疑応答

■ 構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

【お問い合わせ先】

IR室

E-MAIL : `i r @ k k e - h d . c o . j p`

HP : `h t t p s : // w w w . k k e - h d . c o . j p`

Innovating for a **Wise Future**